

【後期試験の基本的な姿勢】

公立大学の国際文化学科が行う「総合学力試験」として、下記3点を念頭において作題した。

1. 地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取り上げる。
2. 内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力も問う。
3. 自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

問1は、下線部(1) *what is going on in senior high schools* の具体的な内容について問うことで、問題文の流れをよく理解しているかを確認しようとする問題である。

下線部(1)の次のパラグラフが、*Senior high schools today are...*で始まっていることに注目すれば、容易に解答に到ることができるはずである。

問2は、下線部(2) *most students had difficulty understanding the lessons even when they were taught in Japanese.*と筆者が結論づけるに到った具体的な根拠について問うことで、読みの正確さを試す問題である。

下線部(2)の前に、*In other words*があることに着目すれば、その直前に具体的な根拠があることは容易に推測できるはずである。この問題は、比較的多くの受験生が正解していた。

問3は、下線部(3) *this point* の内容を文脈から正確に読み取れているかについて問うことで、問題文の流れをよく理解できているかを確認する問題である。

流れをきちんとつかんでいれば、前のパラグラフの *this point* が、*whether it would really improve students' ability of English, even if all English lessons are conducted in English* を指し示していることは容易に察しがつくはずである。

問4は、数値データを正確に読み取れているかを試す、基本的な問題である。この問題については大多数の受験生が正しく答えていた。

問5は、問題文の結論（筆者の主張）の一部を日本語で説明することで、これまでの流れを的確に把握しつつ、正確に読解が行われているかを試す問題である。

多くの答案が、*gauge* や *come up with* の意味を取り違えて、減点となっていた。この問

題では、これらの語や語句の意味を知らなかったとしても、これまでの問題文の流れをしっかり把握した上で、意味を推測し、正確な読解ができるかどうかを試している。

以上、問 1～問 5 は、問われている内容に関する英文を、そのポイントとなるキーワードを押さえながら、いかに速く見つけるかというリーディング力が試されている。

このように英文中から素早く情報を検索するためには、1) キーとなる単語に気をつけながら英文に目を通す； 2) 英文を速く読む力（語彙の知識、構文に関する知識）をつける； 3) 普段から、簡単な英文を多読する、の 3 点が大きなポイントとなる。

#### 問 6：小論文

1. 日本語の不正確な表記、特に、基本的な漢字の間違いや不適切な接続詞の活用が散見された。また、「論文」にも関わらず、内容を適切に段落分けせず記述している答案もみられた。日本語の正確な表記や段落分けは小論文の基本であり、事前の学習が十分なされることが期待される。
2. 記述内容が「課題」と合致しない答案が散見された。課題は、「高等学校の英語の授業を英語で行うことについて、あなたはどのように考えるか、さらに、国際化・グローバル化のなかでわが国の英語教育はどうかるべきだと考えるか」であり、課題に答えていない答案が肯定的な評価を得ることはありえない。
3. 問題文 2（英文）の内容理解が不十分なまま、主に問題文 1（日本語）の内容理解に基づいて論述を試みている答案も散見された。問題文 1・2 の正確な理解・読解を踏まえた上で、課題についての的確に論述する態度を期待したい。
4. 問題文のポイントとなる内容を踏まえ、受験生自身の体験・知識とも関連づけつつ、定義や具体的事例などを意識的に活用して、明晰かつ体系的に「自らの考え」を論述した小論文は高い評価に値する。ただ自らの体験や知識を記述しただけの答案が散見されたが、「自らの考え」を明確にするために体験や知識を論述のなかにどう位置づけるかをまず熟考し、論述することが大切である。